

ごあいさつ

気象研究所は気象庁の施設等機関として、防災や気候・環境問題など気象業務を支える研究、気象業務の将来を見据えた基盤的な研究等、幅広い分野に亘って研究活動を実施し、気象業務の高度化に貢献してきております。

また、「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」の活動や、「世界気候研究計画 (WCRP)」、「観測システム研究・予測可能性実験 (THORPEX)」などの国際的な取り組みにも積極的に参画し、関連する研究を積極的に推進しております。

これらの研究活動の成果を広く社会にお知らせすることは、国民に対する説明責任を果たし、研究開発に対する国民のご理解とご支援を得るために不可欠であります。このため、平成 15 年度より、従来の「研究発表会」を、気象庁の業務や国の施策を支えるいくつかの重点研究課題の全体像を紹介する「研究活動報告会」と、研究課題の終了時にその研究成果を発表する「研究成果発表会」とに拡充改組し、研究成果の普及・広報活動の一層の強化を図ってきております。

今回の研究成果発表会は、平成 16 年度から開始した、所内の各研究部・研究室が横断的に協力して実施した融合型経常研究の中から 6 課題、基盤的な研究の中から 2 課題についてご報告いたします。また、特別報告として、昨年 11 月に北海道佐呂間町で甚大な被害をもたらした竜巻についての現地調査報告と数値モデルによる再現結果の報告、及び、千島列島付近の地震によって発生した津波の解析結果につきましてご報告いたします。

研究成果発表会は、学術的な視点を重視し、研究成果について専門的な議論を行い、研究の今後の一層の発展と、より効果的な実施を促進することを目的としております。関係の皆様におかれましては、今回の研究成果発表会を通じて、気象研究所の活動についてより深くご理解頂きますとともに、今後の一層のご支援をお願いして私の挨拶と致します。

気象研究所長
小宮 学